

# つくしSTジャーナル

三重つくし診療所リハビリセンター

文責：言語聴覚士 一ノ木佳奈



## 2023年もどうぞよろしくお願ひいたします

三重つくし診療所リハビリセンター言語聴覚士の一ノ木佳奈です。

旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。

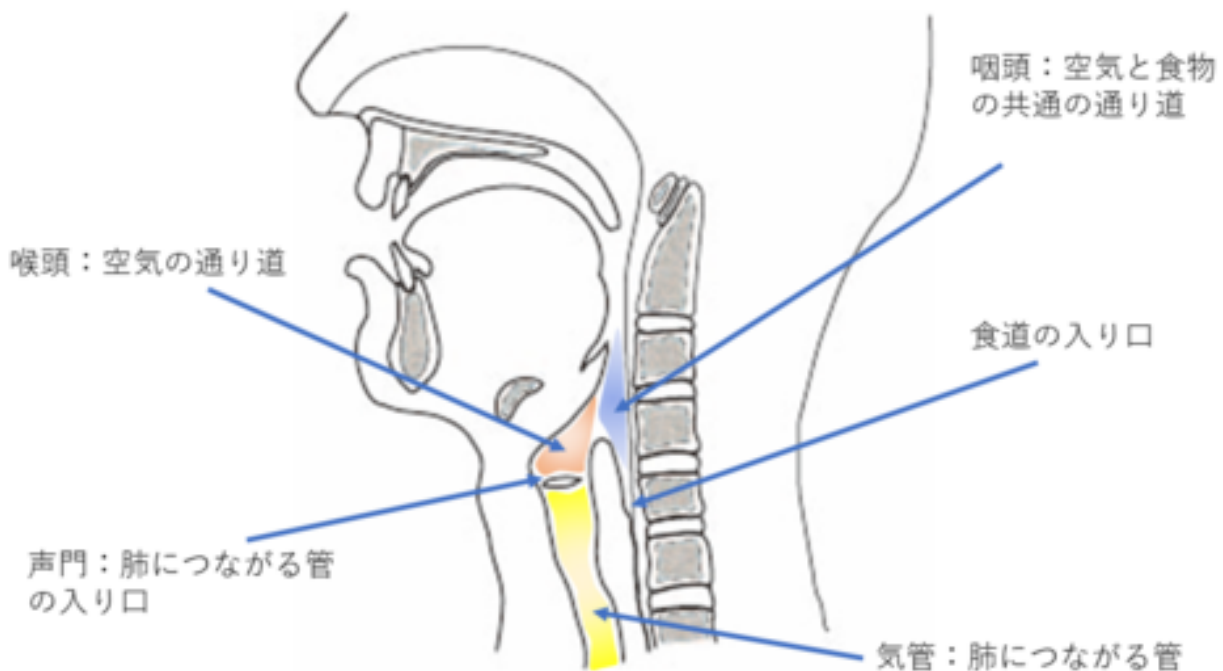
第2号から第3号まで随分と間があいてしまいましたが、その間、言語療法の訪問リハビリのご依頼をいただくことが増え、気が付けば年をまたいでしまいました。

引き続き、本年も訪問リハビリでの支援を精一杯務めさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

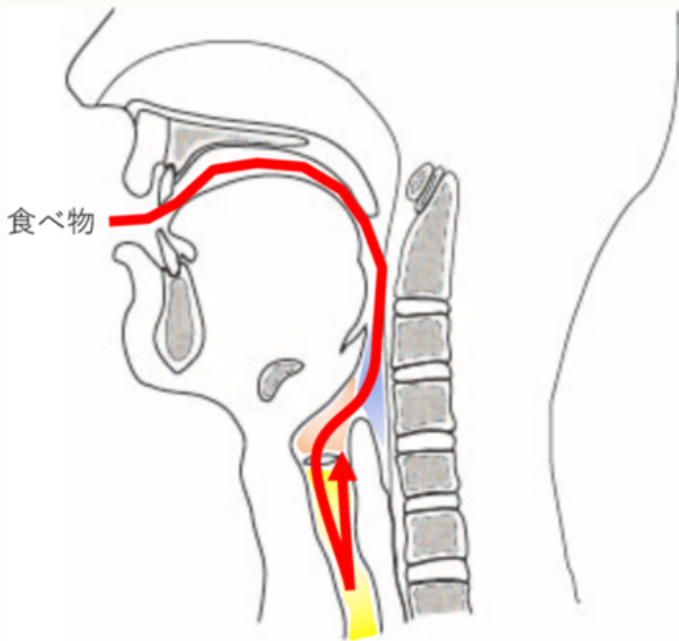
### 66

前回のお便りに引き続き  
嚥下障害をテーマにさせていただきます。



#### 【前回のおさらい】

嚥下障害とは、口、咽頭、喉頭の筋肉や神経の機能が阻害され、  
飲み込む動作に問題が生じた状態をいいます。



(イラスト出典：国立長寿医療研究センターホームページより)

## 嚥下障害の典型 "むせこみ"

摂食嚥下障害の方が訴える典型的な症状は、飲み込みにくい、むせる、といったものです。特に"むせこみ"は、摂食嚥下障害を判断するポイントになります。食物や水分が空気の通り道である「気管」に入りそうになると、それを防御反応として"むせこみ"が起こり、水分や食物を気管の外へ追い出そうとします。したがって、日常的に食事で"むせこみ"が起こる場合、飲み込む過程での問題が生じているということになり、嚥下障害を見極める重要なポイントとなります。むせこんでも食物などが気管に入ってしまった場合を「誤嚥」といいます。

## むせなくても誤嚥？ 不顕性誤嚥とは？

"むせこみ"は嚥下障害・誤嚥を判断するポイントではありますが、高齢になると、のどの奥の感覚が徐々に鈍くなり、食物や水分が気管に入りそうになっても"むせこみ"が起こりにくくなってきます。また、脳卒中などで脳の機能が落ちると、気管に食物が入ってもまったくむせない時があります。このように"むせこみ"がない状態でおこる誤嚥を「不顕性（むせない）誤嚥」といいます。

## 実際の言語聴覚士の訪問リハビリでは

この数か月の間に、嚥下障害の方へのリハビリのご依頼をたくさんいただきました。誤嚥により生じた"誤嚥性肺炎"を発症された方の中には、「全然むせていなかったのに…」と言われ、実際に不顕性誤嚥であった方がいらっしゃいます。"むせこみ"以外にも、食事中や食後にがらがらとした声や痰がからんだような様子があれば嚥下機能の低下を疑うポイントとなります。誤嚥性肺炎の発症からADLの低下に繋がってしまう方も多く、嚥下機能の低下を示す症状にいち早く対応し、早期にリハビリを開始することが重要になってきます。嚥下機能の低下を疑う症状の方がいらっしゃいましたら、ぜひ、当事業所までぜひご依頼ください。

当事業所の言語聴覚士の訪問リハビリでは、嚥下障害、失語症、高次脳機能障害、構音障害などでお困りの方に対し、ご自宅や施設でリハビリをさせていただきます。

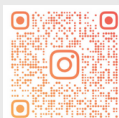
お気軽にお問い合わせください。

言語聴覚士

一ノ木 佳奈



Instagram  
@st.1\_mie\_p5



株式会社 P5

三重つくし診療所リハビリセンター



080-6910-8620



059-235-2090



p5.k.nakada@gmail.com



<https://p5-inc.jimdofree.com/>



Instagram

@p5\_inc.official

